

# 介護労働者の精神的緊張とその影響に関する研究

平成 12 年度報告書

本調査研究は、平成 11 年度を初年度とする 3 ヶ年計画であり、本年度は、昨年度実施したヒアリング調査結果をもとに設定したストレッサー 13 因子について（70 項目）、及びストレス反応について GHQ（General Health Questionnaire：精神健康調査票）方式による 28 項目からなるアンケート調査を実施した。その結果、①知識・技能の不足、社会的地位が低い、従事業務の問題等をストレスとして強く感じていること、②体調が悪い、頭痛がする等の身体的症状としてストレス反応が出やすい事等を報告書にとりまとめた。

## 研究委員会メンバー

(主 査)長 田 久 雄	東京都立保健科学大学 教授
(委 員)米 山 淑 子	老年行動学会 理事
朝 日 雅 也	埼玉県立大学保健医療福祉学部 講師
古 郷 俊 朗	(株)明治生命 F S 研究所 主任研究員
矢 吹 貴 夫	(株)明治生命 F S 研究所 研究員
(事務局)野 村 雄三郎	(財)雇用開発センター 常務理事
川 上 方 満	(財)雇用開発センター 研究調査部長
田 島 博 実	(財)雇用開発センター 研究調査課長

## 目 次

第 1 章	調査概要
第 2 章	調査票作成の考え方
第 3 章	施設介護職を取り巻く就労環境
第 4 章	平成 12 年度調査結果
第 5 章	まとめ
	資料編

## 調査の対象及び内容

### (1) 「介護労働者の精神的緊張とその影響に関する」調査

調査時期：平成 12 年 10 月

調査対象：特別養護老人ホーム 27 ヶ所の介護労働者、計 739 名へ郵送、回収は各ホーム毎の一括回収・返送

回収数：同ホーム 25 ヶ所、計 558 名（回収率：75.5%）

### (2) ヒアリング調査

調査時期：平成 12 年 12 月～平成 13 年 1 月

調査対象：特別養護老人ホーム 8 ヶ所の入所者、計 40 名

調査内容 : 入所者の目から見た介護職のストレス、介護保険制度の理念である自立支援に対する感想